

# 総務常任委員会の記録

(総務課)

招 集 年 月 日	令和8年3月4日(水)
招 集 の 場 所	松野町議会議場
開 会	3月5日(木) 午前 9時00分
閉 会	同 上 午前 9時59分
出 席 委 員	山崎 匡、赤松 紀幸、加藤 康幸、山石 恭助、大内 義昭、 山田 寛二、芝 勇樹
欠 席 委 員	
付議事件説明 のため出席 した者の職氏名	町長 坂本 浩、副町長 八十島 温夫、 課長 小西 亨、課長補佐 細川 洋一 係長 赤松 和昭、係長 山本 紀子、係長 重松 良麻
職務のため出席 した者の職氏名	議会事務局長 森本 秀行、書記 岡崎 智恵子
付 議 事 件	1 議案第33号 令和8年度松野町一般会計予算

山崎委員長	<p>ただいまから、議案第33号「令和8年度松野町一般会計予算」総務課所管分の審査を行います。</p> <p>担当課長に説明を求めます。</p>
小西課長	<p>(業務計画説明)</p> <p>議案第33号 令和8年度松野町一般会計歳入歳出予算について、歳入該当分、歳出2款総務費、12款公債費、13款諸支出金、14款予備費の総務課該当分を、予算書に基づいて説明します。なお、歳出予算の主な増減については総務課資料にまとめています。今年度予算は、基本的に減額傾向であり、減額の主な要因は資料に記載しているため、ご参照いただくとして、詳細な金額は割愛しますのでご了承願います。</p> <p>2款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費の予算額は369,457千円で、前年度対比39,610千円の減となっています。1節報酬から4節共済費までの人件費相当分は4,487千円の減となっています。人事院勧告による給与改定、各種手当等による増額要因はありますが、前年度比では一般職が4名減となっており、また、時間外手当の10%カット分もあることから、全体では減額となっています。</p> <p>7節報償費以降には、70周年事業の式典、コンサート等の予算が合計7,456千円の減額となっております。予算書では比較対象がないため、資料でご確認ください。</p> <p>7節報償費では、訴訟対応もあり、弁護士料を必要金額に合わせて増額しています。</p> <p>8節旅費は、実績を勘案して700千円の減額としています。</p> <p>10節需用費も、実績等を踏まえ基本減額としていますが、庁舎のエアコン修繕等で一部必要額を増額計上しています。</p> <p>11節役務費では、通信運搬費も実績ベースで算定しており、1,166千円減額しています。</p> <p>12節委託料も基本、必要額を積算し減額傾向となっています。</p>

減額の大きなものは、人事給与システム改修費 2, 418 千円と、生活相談員の休止に伴う 807 千円、ZEB 実証の報告書作成 506 千円などです。

13 節使用料及び賃借料も 1, 845 千円減額となっています。高速道路使用料や自動車借上料、派遣職員数の減による家屋借上料の減額が主な要因です。

18 節負担金補助及び交付金も大きく減額しています。退職手当負担金、職員研修費、社会保障・税番号制システム整備負担金の減額が主な要因です。

なお、公共交通機関利用促進事業費補助金については、町政の基本方針と当初予算 19 ページにも掲載しているほか、別添の資料 7 ページにも掲載していますので、後ほどお目通し願います。

2 目文書広報費は、町広報誌「広報まつの」の発行経費であり、予算額は 2, 092 千円で、前年度対比 428 千円減となっています。減額の要因は、自治体広報状況サービスの停止によるものです。

4 目財政管理費には財務諸表作成等の財政事務に関する費用を計上しており、予算額は 1, 360 千円で前年度対比 693 千円の減となっています。委託料業務内容の見直しにより減額したものです。

6 目財産管理費には、普通財産施設の管理費や入札管理システム等の費用を計上しており、予算額は 5, 621 千円。前年度対比 2, 475 千円の大幅減ではありますが、その大きな要因は、旧南小学校の維持管理費をふるさと創生課所管の企画費に組み替えたことによるものです。

10 目コミュニティセンター費の予算額は 5, 840 千円で 712 千円の減となっており、その要因は修繕等に係る経費分です。

11 目諸費は、区長会や行政協力員をお願いしている各組長報償費などを計上しており、予算額は 5, 529 千円で、ほぼ例年どお

りの予算額となっています。

12目財政調整基金費の予算額は14,215千円で、前年度比11,687千円の増となっており、その主な要因は、財政調整基金利子の積立て分、減債基金への積立金の増によるものです。

13目電算管理費は、町の各種電算システムに関する経費で、予算額は165,733千円。前年度対比43,767千円の減額となっています。令和8年度予算で皆減となり、予算書には記載のないものもあるため、資料でもご確認願います。

減額の大きな要因としては、まず委託料で、デジタル基盤改革支援事業が76,670千円、パソコン基幹システム更新が23,246千円、大量帳票印刷931千円、総合行政ネットワーク設備構築550千円、などとなっています。使用料では、パソコン使用料が1,317千円、ガバクラ使用料が13,302千円、備品購入費では、パソコン、設備機器の購入で総額3,892千円、負担金、補助金では、市町業務標準化事業運用保守負担金等で1,352千円が減額要因となっています。

増額の要因もあり、役務費では、ガバクラ回線の使用料976千円、委託料では、住民向けフリーWi-Fiの設置1,602千円、次期セキクラへの設定変更のための715千円が増額となっています。使用料では、総合行政クラウドシステムサービス使用料が60,187千円の大幅増となっていますが、ここは、ガバクラの代替え措置として、ベンダーの地域センターへ接続し、システムを利活用する使用料分を含んでおり、この措置により、ガバクラの利用料が、昨年当初段階から比較して、軽減されることとなった要因です。工事請負費には12,842千円を計上していますが、これは、目黒地域向けの地域イントラケーブルの張替えと、吉野生公民館への光回線の引き込みを予定しているためです。

システム標準化とガバクラ関係は、以前から説明し掲載してきたため、お目通し願います。ご説明した費用の内訳も記載してありま

す。

公共施設の無線環境等構築事業は、指定避難所である目黒基幹集落センターと、指定を予定している吉野生公民館へのフリーWi-Fi環境を整えるための事業となっています。避難時はもとより日常的にも利活用可能な環境を整備したい考えです。イントラケーブルの張替え工事、吉野生公民館への光回線の引き込み、無線環境の構築委託料が、この事業のメニューであるため、資料お目通しの上、ご了解をいただきたいと思います。この事業全体では、緊急防災・減債事業債を充当予定としております。

14目行政改革費の予算額は91千円、前年度同額で、行政改革推進委員報酬及び旅費を計上しています。

2款4項1目選挙管理委員会費の予算額は5,706千円で、前年度対比492千円の増となっており、これは職員人件費等によるものです。

業務計画でご説明したとおり、令和8年度は、11月に県知事選挙、2月に町議会議員選挙、令和9年4月にも県議会議員が予定されており、その準備に必要な部分も予算計上しています。4項2目へ町議会議員選挙費、11,289千円、3目に県知事選挙費、4,570千円、4目に県議会議員選挙費、2,065千円を計上しています。

なお、参議院議員選挙費は、令和7年度に執行完了しているため、廃止目として記載しています。

なお、選挙全般については、別添の資料8ページにも掲載しています。後ほどお目通し願います。

12款公債費、1項公債費、1目元金の予算額は、507,470千円で、前年度対比32,188千円の減となっています。過疎対策事業債ハード分45,686千円の減のほか、各種起債償還元金の増減によるものです。

2目利子の予算額は40,326千円で、前年度対比13,39

5千円の増となっています。緊急防災・減災事業債8,127千円の増のほか、各種償還利子の増減によるものです。

13款諸支出金、14款予備費については省略させていただきます。

以上で歳出について説明を終わり、歳入の説明へ移ります。

総務課資料4ページから6ページに増減理由等を記載してあるので、予算書とあわせご覧ください。

2款地方譲与税から9款地方特例交付金までは、地方財政計画の伸び率により令和8年度の収入見込額を算出し、予算計上をしています。

10款、1項、1目地方交付税は前年度対比5千万円減の21億3千万円を計上しています。

普通交付税においては、国の財政対策の方針によると、経済、物価動向等を適切に反映するとともに、社会保障関係、人件費、教育無償化等、地方負担への増加分を配慮しつつ、地方の行政サービスの安定的な提供を掲げており、示された推計伸び率等を参考に試算しました。しかし、令和8年度に限り、臨時財政対策債償還基金費が創設されたことや、基準財政需要額の公債費が減少していることを考慮し、普通交付税は前年度比6千769万6千円、3.3%減の19億9千408万3千円と算定しています。当初予算においては推計額の99%相当額19億7千万円を計上したため、保留財源としては2,400万円余りを確保していることとなります。

特別交付税は、地方財政計画の推計伸び率や地域おこし協力隊員や地域集落支援員数、特定地域づくり事業、各種プロジェクト事業等に要する経費等を勘案し、交付額1億8,515万6千円円を見込んでいますが、前年同額の1億6,000万円を計上し、2,500万円程度を保留財源としています。

11款交通安全対策特別交付金は、ガードレールや白線など交通安全施設の整備に充当する財源であり、200千円を計上していま

す。

13款、1項、1目総務使用料のうち、1節庁舎使用料を877千円計上しており、これは主にJA松野支所、伊予銀行ATMなどの面積に応じた使用料で、実績額を元に計上しています。2節、コミュニティセンター使用料は存置予算としています。

14款、2項、1目総務費国庫補助金、2節電算管理費補助金、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金5,864千円は、先ほど総務課資料9ページで説明した、総合行政システムクラウドサービスへの充当分となっています。

15款、1項、1目 総務費県負担金には、市町移譲事務等交付金877千円を計上しています。

同じく3項、1目総務費委託金のうち、5節に県知事選挙費委託金4,570千円を、6節に県議会議員選挙費委託金2,065千円を計上しています。

16款、1項、1目財産貸付収入、1節土地貸付金は、電柱敷地使用料等で、前年度と同額の486千円としています。

2目利子及び配当金3,338千円のうち、総務課所管分の財政調整基金等の預金利子については2,658千円を計上しています。

同じく、2項、1目不動産売払収入、2目物品売払収入については、科目存置予算として計上しています。

17款、1項、1目一般寄付金も、科目存置予算として計上しています。

同じく、2目、1節 総務費寄付金に文書広報費寄付金を30千円計上しています。

18款、1項 特別会計繰入金については145千円を計上しています。

2項基金繰入金、1目財政調整基金繰入金は、財源不足対応として、前年度同額の2億5千万円を計上しています。2目減債基金繰

入金についても、前年度同額の2千万円を計上しています。

19款、1項、1目前年度繰越金は、対前年度比300万円増の800万円を計上しています。

20款、2項、1目町預金利子、歳計現金預金利子は前年度同額の60千円としています。

同じく、5項、1目雑入、2節交通災害共済普及助成金は209千円で実績見込み額を計上しています。

同じく5節、保険料実費徴収金のうち、雇用保険個人負担分には551千円を計上しています。

9節、市町振興協会交付金は、サマージャンボ宝くじ、オータムジャンボ宝くじ等の収益金を原資として、県内市町等が実施するイベントや研修事業に対し助成しているもので、15,196千円のうち、市町振興協会助成金が82千円と、市町振興協会基金交付金6,180千円、市町振興協会市町交付金4,934千円で、総務課分は11,196千円を見込んでいます。

同じく雑入の19節、雑入の内、細節、公務員災害保険費500千円は、令和7年度分公務災害の精算実績に応じて令和8年度に受け入れるものです。

21款、1項、1節過疎対策事業債331,900千円については、各事業の予算措置に基づき、ハード事業分278,300千円、ソフト事業分53,600千円を計上しています。ソフト事業については、今年度の厳しい財政状況も勘案して、例年の実績ベースを予測した額で計上しています。

総務課資料16ページ以降には、全会計における令和8年度発行予定の起債事業区分ごとの事業内容、事業費、財源内訳を掲載しているので、参考としてください。

なお、臨時財政対策債は国において新規発行額はゼロとされており、今回も予算計上はありません。

以上、総務課所管分の予算について説明を終わります。

<p>山崎委員長 山田委員</p>	<p>担当課長の説明が終わりました。委員からの質問を許します。</p> <p>業務計画のところでちょっとお聞きしたいと思います。</p> <p>業務計画の中で、働き方改革についてなんですけど、その中で、職員研修をして職員のスキルアップということやと思うんですけど、現時点でどのような研修をされておって今後もどのような研修をして職員のスキルアップにつなげていくのかと、超勤の改善ということで、10%という数字は聞いているんですけど、実績としてどれぐらいの超勤があって、超勤の時間をどれだけ減らして、それによって金額というか報酬ですかね、その分がどれだけカットできるのか。そこら辺の具体的な取組、またどのようにしてカットしていくのか、全体的なカットというのでも分かるんですけど、やっぱり職員によっては、集中しとるというか、ある程度、限られた方が超勤してるような、以前の私の記憶なんですけど、そこら辺が、現状は平準化されてるのか、それを平準化するためにどのような対策をとるのか、そこら辺を教えていただいたらというふうに思います。</p> <p>それともう一つは、業務改善として、生成AIを活用して、効率化を図るという項目がありましたけども、具体的に生成AIを使ってどのような改善をして、どれだけの効率を期待しているのか、それが、数的にどのような形になるのか、なかなか財政が厳しい中ですので、そういった改善によってどれだけの業務というか、金額として改善できるのか、そこら辺が分かれば教えていただいたらというふうに思います。その2点お願いします。</p>
<p>小西課長</p>	<p>まず1点目の働き方改革のところ、職員の研修ということですが、職員の研修につきましては、毎年計画的に実行しております。各階級別で県の研修所の研修等を利用して、課長補佐管理職で係長初任者等の研修を計画的に実施させていただいております。職務の階級によった職員研修を実施させていただいております。そのときの問題にも対応するというので、今年、来年あたりは、カスハラ対応の研修もさせていただいて、自分たちの意識を高</p>

めること、そしてその対応をどうするかということも、今後の対応策も含めて研修をさせていただいているところでございます。あと以前は国の研修所での研修等も行ってございましたけれども、最近、対応できるところがないということと、昨今の財政事情も鑑みまして、その点については少し今回は見送っておるところはございますけれども、各職員のスキルアップにつながる研修については計画的に実践をしているということで御了解を頂いたらと思っております。あと、働き方改革との関連も出てくるんですが、時間外、今回10%カットさせていただくと町長からも説明をさせていただいたとおりでございますが、山田議員の御指摘のとおり、人によってその時間外の部分が偏っているというところは確かにあると思います。それは人の働きの具合によるというものではなくて、業務によってそれが集中しているというところもあると思います。その点を改善するために、今年度から少し実証的に行おうとしておりますのは、まずはやはり課長管理職の課のマネジメントが大事ではないかということで、課長に対してそういう課の職員の業務の標準化を図ってほしいということで、再度指導をしておるところでございます。

それにあわせて、実際にどれだけ職員が時間外をやっているのかということは今後は、各課長に毎月通知をいたしまして、そういう数値を見ながら実際にどれだけ職員が時間外をしているのかというものを把握しながら、課の中の調整をしていただくようお願いをしております。

そして、昨今の働き方改革もございますので、職員の中においても、できるだけ時間内の業務に集中をしながら、できるだけ時間外の業務にならないような意識の改革というものも行ってありますし、そういうものを総称しまして、できるだけ時間外が、今回予算の中で収まるように、全職員を挙げて取り組んでいこうということで、昨日、町長からもありました職員組合にもお願いをいたしました。

たし、庁議を通じて課長管理職の立場からの指導もさせていただいております。これは令和8年度からの取組という意味でも取上げておりますけれども、その実践につきましては、もう既に庁議を通じて町内に集中しております、その取組については3月からも実践をするということで行っていかうということをお計画しております。

あと生成AIの関係につきましては、既にもう行政の仕事の中でも取組を開始しております、実際に町長を筆頭にして生成AIへの活用についてはもう、利用するよというよということで、職員の中にも徹底をしております。その環境についても、今総務課の電算係のほうで仕組みを整備しまして、職員に使える環境を提供しておりますし、令和8年度からは、もう少し変わった環境が使えるよよということで新たなAIが使える環境の整備も今計画をしておりますので、そのことによりまして、今まで職員が全て手作業とか情報収集をして資料を作ったり、業務の改善につなげていたものが、AIを活用することによって、瞬時にそういうことが対応できることで非常に時間の短縮や労力の短縮につながるよよということで私たちもそれはすごく実感をしております。AIについては、様々言われております、いい点悪い点あると思っておりますが、利点を最大限に利用して、事務の効率化を図るよよに努めていきたいと思っておりますので、また効率的にできるように、庁舎の中で徹底をしていきたいよよというふうに思っております。

山 田 委 員

ただいまいろいろ説明頂きまして大筋では内容的には理解したんですけど、職員の研修の件なんですけど、任用職員も含めての研修もされとると思っておりますけど、やはり仕事に対する取組方とかモチベーションとか、それぞれ個々によつて違ふのは十分分かるんですけど、そこら辺をやつぱ上司とか、町長らも含めて、やつぱ職員の方のような勤務で日常働いてるのかいうところをウォッチしていただきながら、その人その人に合つたやつぱ、研修なり、指導なり、していただき、大変職員の方は多分、普通にいうか真面目にいう

か、問題なくされとるというふうには認識してるんですが、やはり職員間でもやっぱばらつきもあると思いますんで、そこら辺はやっぱ管理職とか、そういった方がやっぱ日頃見ていただいて、適切な指導、また教育、そういったものにつなげていただければというふうに思います。

それと超勤の件なんですけど、超勤についても10%という数字は出されてますが、それも先ほどからありましたようにやっぱり上司が、この人はちょっと超勤が多いんで、業務によって多いのも理解できるんですけど、やっぱその課とか、よその課も含めて、平準化じゃありませんけど、やはり集中しとる人をなるべく平準化できるような方策もとって頂ければ、全体的にもし、業務に余裕のある人がもしおればですね、そこへ仕事を回すとか、それは全体的な超勤も私単純に思うたら減るんじゃないかなと、なかなか業務の中で、難しい部分もあるとは思いますが、そこら辺をやっていかないと、ただ数字だけ10%カットしても、それをやるためにはどういったことをするのか、そういった具体策がやっぱり必要だと思います。それはやっぱみんなで考えていただいて、財政厳しい中特に、こういう見直しするチャンスじゃないかと思えますんで、その点もよろしくお願ひしたいと思えます。

それと生成AIの件も、大分導入はされてるというふうに認識はしてますけど、やっぱ効率化が図れるのは十分理解してても、これによってどれだけの業務が効率化できたのか、そこら辺もやっぱ具体的に数字を捉えていただいて、これをやることによってこれだけの業務がこれだけ減ったんやという捉え方をさせていただいて、最終的に、こういうことをやることによってどれだけ、財政いうたらおかしいですが効率化が図れたのか、金額に置き換えるなら置き換えていただいて、そこら辺を見ていかないと、全体的な財政の改善にはなかなかつながっていかんやないかなという危惧してますんで、そこら辺をやっぱ課ごとにですね取り組んで頂けるよう

小 西 課 長

に、総務課のほうで中心になって、取り組んで頂ければというふう  
に思います。

御指摘もごもっともだと思います。

今回の御指摘につきましては私たちも重々承知をした上で対応し  
ないといけないと思っておりますので、先ほど言いましたように、  
組織全体を挙げてその意識を上げていくということにつなげないと  
時間外の問題についても、目的といいますか、予算を予算内で収め  
るという目的を達することはできないと思っておりますので、その点につ  
いては重々総務課から指導しまして、やっていきたいと思っております。

現在、行政の中では、人事評価システムというシステムを導入し  
て、職員の業務管理をしております。人事評価と聞きますと、上司  
が課員の業務を評定していわゆる勤務評定のように聞こえますけれ  
ども、今私たちが取り組んでいる人事評価システムは、全く逆であ  
りまして、担当が年間を通じて主要な業務、これに取り組むという  
ことを自分で組立てて、それを意思表示して上司に評価をしてもら  
うという仕組みになっております。いわゆる人事評価システムで、  
そのことをしっかりと、数値化して表面化することによって、業務  
が明確になり、年間でどういうことを取り組まないといけないのか  
ということが職員の中で、明確になりますので、私たちはその人事  
評価システムを利活用しながら、しっかりとした業務推進を進めて  
いくということで人事評価のほうについては取り組んでおりますの  
で、いま1度そういった現在取り組んでおる内容につきましても見  
直しをいたしまして、スリムといいますか働き方の改革につながる  
ような仕事のやり方についてもう一度再確認をしながら進めていき  
たいと思っております。

AIにつきましては、取組を始めたところで、なかなかそれを数  
値化しろといってもなかなか難しいところありますが、業務が短縮  
するとか、作業量が減るといったメリットも当然ありますけれども、

	<p>生成A Iを使うことによって、自分たちでは知り得ていなかった情報もその中の回答に盛り込まれて、その作業が進んでいくというすごく大きな利点もありますので、業務を深めていくというか、広げていくという面についても生成A Iというのは活用がすごく利用価値があると思いますので、作業の効率化と、そういった面も両方をうまくプラス面を引き出しながら扱っていきたいと思っております。この点につきましては、先ほど言われましたように、ゆくゆくはどれぐらいそれによって業務が効率化したのかということは、検証しながら、今後の業務に生かしていかないといけないと思っておりますので、またその点は実践をしてみて、こういうメリットがあったというのはまた議会にも報告をさせていただいたらと思います。</p>
山 田 委 員	<p>仕事の効率化業務の改善なんですけど、さっきからありましたが、やはり職員の仕事を楽にするというか、効率化を図って、仕事がスムーズにいけるようにしてそれによって、経費も削減できるのが1番の理想やと思いますんで、仕事を押しつけて減らすとかいうのじゃなくて、やっぱ仕事を改善して、さらに数値的に金額的にも改善できるというのが1番の理想じゃないかなと思いますんで、そこら辺をやはり今、財政が厳しいいう状況になってますんで、これを、ピンチをチャンスというふうに捉えていただいて、やっぱ全職員が同じベクトルというか同じ方向を向いて、改善に取り組んでいけるように、またそういった組織づくりというか、組織づくりと言うと大げさですけど、そういった体制づくりのほうに今後ともお願いしたいと思います。</p>
赤 松 委 員	<p>2点ばかり質問をさせていただいたらと思います。</p> <p>まず1点目でございますが、8年度の予算編成に当たっては、大変厳しい財政状況の中で御苦労されてきたと思いますが、予算編成に当たって、具体的に各課にどのような編成方針といいますか考え方を指示されて今回の予算が成り立ってきたのか、そこら辺の内容</p>

<p>小 西 課 長</p>	<p>を教えてくださいと思います。</p> <p>次が2点目でございますが、業務計画の中に、今ほど議長のほうからもお話があったんですが、この厳しい財政状況の中で、職員の取組といいますかその考え方という中で、業務計画の中の3番の2の中に、財政状況にも即応できるコスト意識とスピード感のある職員感覚を醸成するというようなことで、そういう内容がうたわれているわけでございますが、この内容の具体的な取組をどのようなお考えでおられるのかそこら辺もお聞かせ願いたいと思います。</p> <p>8年度の予算編成に当たっての各課への依頼ということですが、昨日の町長の一般質問の答弁の中にもありましたように、今回につきましては、予算編成会議の折から、非常に財政が厳しいということで、もう今までも、スクラップアンドビルドしなさいということは言ってきたんですが、そうは言っても既存の予算についてやはり経常的になっていた部分もありますので、もうそういうものを全て、ゼロから考え直して、二つの事業が一つで有効なとこだけを取る事業に置き換えることができないのかといった視点も持って、1回全てゼロに戻してから予算を組み直すということでもう本当に厳しい内容のお願いをしたところです。一部住民の方への補助金等々を説明もしてきましたけれども、実際の団体の状況等も見て、補助金が真に必要なものかどうか、そういうところも含めて、今回は、各課で予算の再構築をさせましたので、そういう点におきましては非常に厳しい内容の周知をして予算を組み上げたということです。</p> <p>そして昨日の話もありますように財政での一次査定の折、これについても、1回ゼロベースで予算計上をさせておりますけれども、ゼロベースに置き換えて、理事者査定で必要なものを引き上げるというふうな逆さまの査定の方法等もとらせていただいておりますので、かなり必要に応じた本当に必要最低限のところがあるのかというような査定も今回はしておりますので、そういう点では、非常に厳しくみ上げをしてきたということになっておりま</p>
----------------	--

す。

そうは言いましても、ただカットするだけで、前にも赤松議員さんも御指摘言われましたように1億、2億が簡単に一般財源切れるわけではございませんので、その中で、2億円の圧縮をかけたということは、事業の見直しを行って、代替の財源を確保するとか、県の補助事業に事業の中身を精査して、再構築することによって事業の補助事業を獲得するとか、そういうことを非常にたくさんやらしてきましたので、そういう点では、何もかも一律に切ってしまったというよりは、必要なものについては代替財源を検討してでも予算が執行できる方法がないのかということの査定をしてきましたので、厳しい面と、知恵を絞って検討して、予算にこぎ着けた面と両方ございますので、そういう御理解を頂ければありがたいかなというふうに感じております。

業務計画の3-2に書いてある財政状況に即応できるコスト意識とスピード感の職員感覚の醸成、これにつきましては、町長からの指示もあり、今回新たに項目として起こしたものであります。この喫緊の財政状況をもって、職員の感覚が変わらなければ、ただ、厳しい予算を組んだだけに終わってしまいます。これをいかに有効に執行できるのかどうか、これはやっぱり職員がその危機感とコスト意識を持ってこの予算に当たらなければ、令和8年度はただ緊縮の財政を敷いただけということになってしまいますので、やはり今の厳しい状況は、一時的に耐える段階で、これから先どうやってこの状況を脱していくのかということ、その認識を持たないと、ただ厳しい財政状況のままということになってしまいます。

先ほど言いましたように代替の財源を構えるということもそういう意識の一つであると思いますので、そういう観点から、ピンチはピンチですが言われるようにピンチをチャンスに変えるにはどうやって考えを変えていって、この状況に対応するのかということがこの項目には盛り込まれております。具体的にと言いましてもなかなか

	<p>かこれをこうしなさいという指示はしてありませんが、先ほど言いましたような、この財政状況に対応しながら、次に向けて進んでいくための考えを持つということが、この項目では1番大切じゃないかと思っております。その点は町長のほうからも全職員に対して、指示を出しておりますので、その感覚は持ち合わせて令和8年度の業務に当たるんではないかというふうに思っております。</p> <p>以上のようなことで御理解頂いたらと思います。</p> <p>私、想定しておりましたようなことでの大変詳しい説明を頂きまして、安心をしたところでございますが、何分この問題は、町政運営の根底でございますので、これを棚に上げては円滑な町政運営はできないわけでございますので、ぜひ取り組んで頂いたらと思います。</p> <p>この基本方針にもずばり書いてありますように、持続可能な松野町をつくっていくためには、町の健全財政の堅持を第1と捉えるという、もう確かに的確な言葉が記載してあります。そういうことで、1年2年で簡単に正常な会計ができるのであれば問題ないんですが、今日たまたま新聞にも見ておりましたら、北海道の夕張市が17年ぶりに財政健全化に向けた目安がたったというようなことが載っておりました。そういうような、一度財政を破綻しますと、長期間の期間が要するわけでございますので、そこら辺も十分とらえて、今後、健全財政に向けて努力をしていただきますようお願い申し上げます。質問を終わります。</p>
赤松委員	<p>他にありませんか。</p> <p>質問が無いようであれば、採決に移ります。</p> <p>ただいま審査しております、議案第33号について、原案のとおり可決すべきものと決定することに、ご異議ありませんか。</p> <p>(異議なしの声)</p>
山崎委員長	<p>賛成全員です。</p> <p>したがって、当委員会は、議案第33号「令和8年度松野町一般</p>

会計予算」、総務課所管分については原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和8年4月21日

松野町議会総務常任委員会委員長 山崎 匡